

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 30日から5月1日は、高気圧が日本付近から日本の東へ移動する。
- 1日から4日にかけて、低気圧が朝鮮半島の北からサハリン付近へ進み、2日から4日にかけて気圧の谷が日本付近を東進する。
- 1日から3日にかけて、前線や低気圧が東シナ海から日本の南を通過して日本の東へ進む。
- 4日は、高気圧が西日本付近へ移動する。

<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

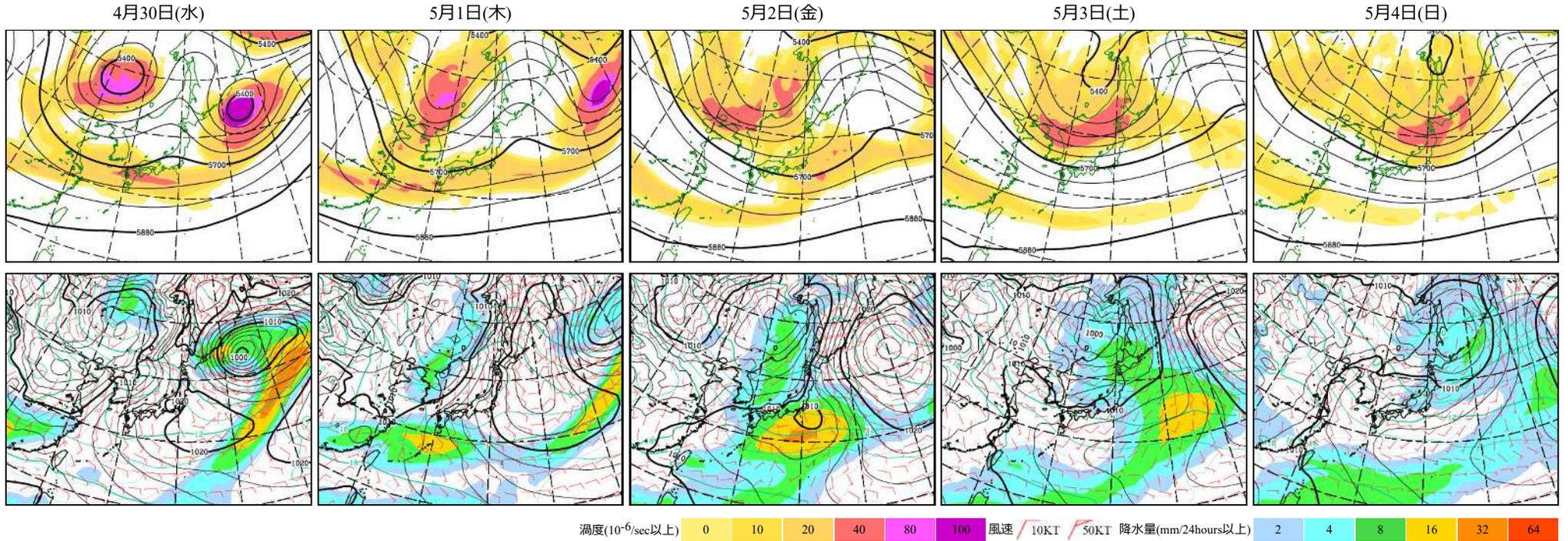
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

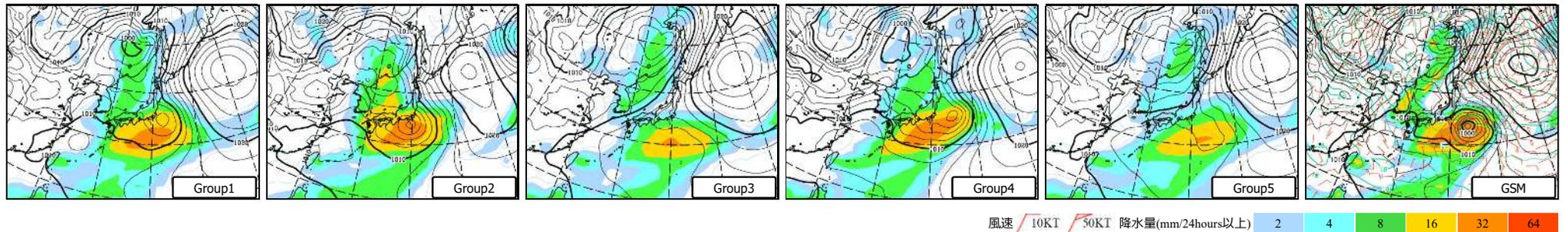


- 北日本は、曇りや雨または雪の降る日が多いが、5月1日は晴れる所が多い。
- 東日本は、30日から5月1日にかけては晴れる所が多いが、その後は曇る日が多く雨の降る所がある。
- 西日本は、晴れや曇りの日が多いが、5月2日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多いが、30日は晴れる所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆5月2日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、30日は日本の東を進む発達した低気圧の東進が遅くなった。5月1日から4日にかけて日本の北を東進する低気圧が明瞭となった。また、2日頃に日本の南を東進する低気圧が新たに発生した。3日から4日にかけて日本の南に張り出す高気圧の勢力が少し弱くなった。
- 5月2日頃は、日本付近の気圧の谷が強まったため、降水確率ガイダンスの値が大きくなった所が多い。
- スプレッドは、比較的小さいが期間の後半は5400mの特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、2日頃は昨日との変化が大きいことから海外モデルも参考にする。